

『何もしいないことは

何かをすること』

詩『からっぽとは』（まどみちお）の
授業と講演より

西郷竹彦

授業は、一九九一年八月二十三日に広島県福山市立久松台小学校の
五年三組の児童をお借りしてしたものである。
講演は、授業参観者を対象にしたものである。

目次

一、教材文

二、授業記録

- (1) 常識的なものの見方と非常識なものの見方
- (2) 不真面目な詩か
- (3) 何もしていないことは何かをしているのではないか
- (4) 真面目なことをおもしろく書く
- (5) 板書

三、講

演 (1) 逆説的なものの見方とは

- (2) 常識を疑う
- (3) 傍観者の論理

からっぽとは

まど・みちお

からっぽとは

空気の 山もりのこと

からからに かわいているとは

空気に びしょぬれのこと

ごはんを たべるとは

それを空気のお茶づけで たべること

風車を かざぐるま まわすとは

空気の くうき 水車を みずぐるま まわすこと

自動車の じどうしゃ 電車の でんしゃ 飛行機に ひこうき のるとは

せんすいていに のること

空気の底を くうせ もぐって すすむ：

そして なに 何もしないとは

空気を くうき 吸つたり す 吐いたり は

ただ それだけを す すること

まじ・みちお 詩集

『宇宙のうた』

銀河社 出版

二 授業記録

(1) 常識的なものの見方と 非常識なもの見方

C これから一時間目の授業を始めます。

(題を書く)

T 今日詩の勉強ですが、ちよつと読んで
みてください。

C からつぽとは。

T からつぽとは何でしょう。

C 何も無いこと。

T 何も無いこと、なるほど。からつぽとは

C 何も無いこと、そうだと思ふ人？

T なんか、違ふ人？

C みんな同じ考え方？

T 今日みんなが今までたぶんしたこと

C ない勉強をしますね。

(板書 ものの見方・考え方)

T ちよつと読んでみてください。

T C T C
もの見方 考え方
こんな勉強したことある？
ない。

T 今日、この勉強しますね。今、みんなは
からつぽというのは何も無いことだと考
えましたね。これはみんなの考え方です。
普通の見方。考え方です。ちやわんがか
らつぽというのはちやわんの中に

C 何も入つてない。

T C
というのが、あたりまえの考え方です。

T ところが、こういう考え方じゃない考
え方があるんです。みんなは何も無いと言
つたでしょ。からつぽというのはちやわ
んの中に何も無い。別の考え方ができな
いかな。

C 何かが入れられる。

T C
何かが入れられる。でも、今は入つてな

T いんだな。何も無いと言つたんだから、
それに対して、何かがあると考えてご
らん。

C ちやわんがある。

T C
おもしろいね。ちやわんの中身だな。

C 他にない。

T C

空気がある。
なるほど、他には？

何も無いというのが普通のものの考え方
みんなのもの考え方、当たり前前の考え
方ですね。これは正しいんですよ。正し
いのだけれど、引つ繰り返して考えてみ
る。何も無いということが、当たり前前の
普通の考え方だつたら、何かがあるとい
う考え方は何て言つたらいいかな？
引つ繰り返した考え方、あるいは、ない
に對してあるという見方はどういう見方
・考え方と言つたらいいかな。

T C

何かがこぼれる。

先生が聞きたいのは、何も無いと考える
のが当たり前前の考え方、それに対して
空気があると考えるのはどういう考え方？
普通ではない考え方。
普通ではないという事は別な言い方で
いうとどういう考え方。

T C

非常識な考え方。

非常識、難しい言葉を知っているな。こ
つちの考え方は？
常識的な考え方。

C

T

常識つていうんだな。もうない？

T C

当たり前前ではない。
当たり前前ではない考え方。引つ繰り返す
というのはどういう意味？

T C

反対。
うん、そうね。△あべこべ△という言
方もあるね。△あべこべ△という言葉
知つてる人？

T C

あまり知らない？そう。
△あべこべ△つてどういう意味？
△あべこべ△の意味は引つ繰り返す、反
對という意味です。からつぽというの
何も無いと考える見方は、普通の当たり
前の考え方。見方、みんなが考える見方
・考え方、常識ですね。それに対して、
からつぽというのは何かがある、たとえ
ば、空気がいつぱい入っている。あると
いう考え方は、引つ繰り返した非常識な
見方。考え方ですね。

T C

(2) ふまじめな詩か

T まどみちおさんって知っている？

『からっぽとは』という詩があります。まず、目で黙って読んでごらん。読めない字がありますか。

一連、二連、三連、四連、五連、六連がありますけれどね。

（六連は伏せてある。）

先生がまず読んでみますね。

へからっぽとは／まどみちおへ

へからっぽとは／空気の 山もりのことへ、からっぽとは何も無いことではなくて、へ空気の 山もりのことへからからに かわいているとは／空気に びしょぬれのことへへびしょぬれへってどんなときに使う？

C 水にぬれた時。

T 水にぬれた時、使うんだな。

へごはんを たべるとは／それを空気のお茶づけで たべることへ

お茶づけって、普通、どういうものかな？

C ごはんにお茶をかけて食べる。

T ごはんを食べるとは、それに空気をたっぷりかけて食べる。

T (へ風車)という漢字を指して)

C これは何？

C ふうしゃ。

T 風車だな。へ風車を まわすとは／空気の

水車を まわすことへへ自動車 電車 飛行

機にのるとは／せん水ていに 乗ることへ

へせん水ていへって、どんなものか知ってる？

C 水にもぐるもの。

T そうだな。へせん水へとは、海の底をもぐって行くことですね。だけど、自動車、電車、

飛行機は、走るものだな。それをへ空気の底

を もぐってへと言ってるんですね。

(板書の本文を指しながら)

へからっぽとはへ、はい。

(一斉に読む。)

C からっぽとは

C 空気の 山もりのこと

C からからに かわいているとは

C 空気に びしょぬれのこと

C 空気に びしょぬれのこと

ごはんを たべるとは
それを空気のお茶づけで たべること

風車を まわすとは
空気の 水車を まわすこと

自動車 電車 飛行機に のるとは
せん水ていに 乗ること
空気の底を もぐって すすむこと

T みんなは、この詩をどう思う？

みんながごはんを食べるっていうのは、空気のお茶で食べること、風車をまわすとは、空気の車をまわすことだよ、というようになことを言われたらどう思う？

C おもしろい。いつもやってみることじゃないからおもしろい。

T あ、なるほどと思う。そうだなと思う。

C 思う。

T 感心する？

C する。

T からからにかわいているのは空気にびしょぬれだと言われたら？

C かわっている。

T ごはんを食べるとは空気のお茶づけだと言われたら？

C おかしい。

T おかしいな。

C 変な。

T いろいろ出ましたね。こっちの人はおもしろいと言ったね。こっちの人は、かわっている。その人は、おかしい、変な感じと言ったね。もうない？みんながごはんを食べるとは、空気のお茶づけで食べると言ったら、先生は何と言うだろう？お母さん、お父さんだったら何て言うだろう？ほめてくれる？

C ほめない。

C 笑う。

T 笑っちゃう。他に、お父さん、お母さんは、

T こんなこと言われたら何て言うでしょう？

C 笑う。

T なんて笑う？

C おかしいから。

T おかしいから。他にもうない？

T 江口君、おもしろいと言ったね。どう思う？

なるほどと思う？

おもしろい。

T 確かにおもしろい。あほくさいね。

まどみちおさんは、こんなバカげたことを書いてる。詩人とは、なんて変なことを書いてるんだらう。普通の見方・考え方とちがう。みんなの考えないこと・非常識・あべこべ・あたり前でないことを書いてる。

この人、まじめな人だと思ふ？

C まじめな人じゃない。

T まじめな人じゃないとは？

C ふまじめな人。

C 逆にした考え方、変わった見方だから、ふまじめだと思ふ。

T まどみちおさんは、まじめじゃない、ふまじめな詩を書いたというわけですね。

(3) 何もしていないことは、何かをしているのではないか。

T さて、六連。六連は、どんなことを書いてると思う。また、一連から五連と同じようなことを書いてあると思う？ 反対のことが書いてあると思う人？ (反対のことに挙手が多い。)
ああ、多いね。

(六連を見せる)

へそして なにもしないと空気をすったり はいたり/ただ それだけを すること
と∨これは、一連、二連、三連、四連、五連と同じようなことか、それとも違うことか？
どっちなんだらう？

C 反対のこと。

T へなにもしない∨とは、どういうこと？

C 身動きしない。

C 何もしない。

C 動かない。

T 六連は、普通の見方、それともあべこべの見方？

六連だけで聞いてみようか。なにもしないこ

とは、ただ空気をすっているだけ。これは普通の見方じゃない、裏返した、反対の見方ですね。この見方が素晴らしい、面白い、すごいと思う人？変だなつまらんとと思う人？どっちでもない？もうちょっと班で話し合ってみて。

(班討議)

変だと思う。

T C
何もしないということは何かをすること、というの、常識のある人なら、変だと思う。おかしいね。

ちよつと具体的に考えてみようね。学校の中でこういうことないかな。強くて大きい人が弱くて小さい人をいじめている。学級の中でありますか？けんかじゃない。そこで、それを見ている人がいます。ただ見ているだけでやめなさいと止めもしない。ただ見て見ぬ振りをする。先生が、「お前、何してるんだ。」と言うと、この人は「何もしてない。」と言いました。そこで考えてみてください。止めもしない、助けもしない、見ているだけだから、何もしてない。普通の考え方だったら、何もしてない。そこでこれをひっく

り返して、何かをしているのではないかと考えてみてください。話し合ってみてください。

(班討議)

T C C
見て見ぬ振りをする。

T C
息をすったりはいたりしている。そりやそうだね。

もうちよつと具体的に問題をだそう。いじめている、こういう場合に、いじめる立場にもない、いじめられている立場にも立たない、真ん中に立っているのを何て言うか知っている？

T C
中立。

よく知っているな。こういうのを中立と言うんだな。いじめを止めようとも、助けようともしない。ただ見ているだけ。真ん中に立っている。中立とは、何もしてないということなのですね。

いじめている。泣いている。どんどんいじめている。そういう時に、中立、何もしてないことは、いじめを手伝っていることになるのか、ならないのか。

(班討議)

C
いじめを手伝うことになる。

C ただ見てるだけじゃなくて、大きく強い人へこまされるかもしれないから、おびえてる。

C (平門) 大きい人から見れば、単なる邪魔だけど、小さい人を助けると……。

T 平門君、大きい人が小さい人を傷つけた。見てる人はなにもしない。あなたはどうする？ どう言いたい。

C (平門) なぜ助けないか。

T 助けなかったらどうなる。

C (平門) もっといじめられる。

T そうすると、手伝っていることになる、ならない？

C (平門) 手伝っていることになる。

T 他の人に聞いてみよう。

C どうして。

T (江口) 弱い人を見殺しにしている。見殺しにしている。いい言葉を使ってくれたな。的確に表現してるな。みんな、見殺しにするという言葉を知ってる？ 見殺しにするというのは、この人が直接自分で手を出してやっつけることじゃないんだね。見殺しにす

るといふのは、止めもしない、助けもしない、ただ見ているだけで、見て見ぬ振りをする。そのために、小さい弱い人が殺されるといふことになる。そういうのを見殺しにすると言うね。先生は江口君に感謝しよう。先生は思いつかなかつたなあ。的確に表現しているね。何もしないとすることは、見殺しにすることいじめを手伝っていることになるね。でも普通はそうは考えないんだな。「何もしてないのに。」と言うんだなあ。そんな人がいたら君は、「何もしないことは、人を見殺しにしていることじゃないか。」と言ってやりなさい。

(4) 真面目なこととを面白く書く

T まどみちおさんは、こういう時、何もしないというの、ただ空気をはいたり、すったりするだけだ。みっともない、見苦しい人間じゃないかと言っているんですね。この詩は、ふざけた詩ですね。常識と違った非常識な見方、考え方というのは、不真面目ということになるのだけれどこういうふうと考えてみる

と、すごく真面目な詩なのです。笑ってなんかおれない詩ですね。この詩は、みんなが言ってくれたように読むと、おもしろい、おかしいな、変だなあ、笑っちゃう、ふざけている、不真面目なと言うけれど、よく考えると、真面目な詩なんです。

「何もしてない」と考えることに對して、そうじゃない、何もしてないということは、見殺しにすることだ。そして、そういう人間はもう、ただ息しているだけだ。もう人間じゃない。こういうことを訴えている詩なんです。

今日勉強したことは、へからっぽとは何もないことで、それが当たり前、普通のみんなの常識なんです。常識は大切だけれど、時には、常識をひっくり返して考える、あべこべに考えてみる。非常識かもしれないけど、何もないことは何かがあることじゃないかと考える。何もしないということは何かをしているのじゃないかと考える、逆にして考える。この詩は逆説の詩なんだ。普通の、当たり前の常識をひっくり返した詩だから変なんです。変なんだけど、よく考えてみると、変じ

やない。時には、常識をひっくり返して非常識に考えてみる方が、ものごとの本当のことが却ってよくわかる、こういうことがあるんです。

からっぽとは まど みちお

からっぽとは

空気の山もりのこと

からからにかわいているとは

空気にびしょぬれのこと

ごはんをたべるとは

それを空気のお茶づけでたべること

風車をまわすとは

空気の 水車をまわすこと

自動車 電車 飛行機にのるとは

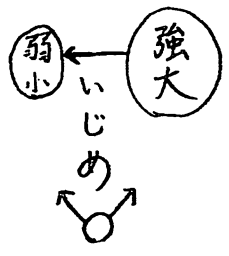
せんすいていにのること

空気の底をもぐってすすむ……

そして 何もしないとは

空気を吸ったり 吐いたり

ただ それだけをする事



中立

ただ見ているだけ
とめもしない
たすけもしない
見て見ぬふり

何もしていない
見殺しにする

おもしろい
かかっている
おかしい
へんな
わらう
ふまじめ

◎詩の美
文芸作品の味わい
趣き
芸術だから美がある

矛盾するあり方

まじめでふまじめな詩
まじめなことをふざけていう

ものの見方、考え方

ふつうの あたりのまへの
みんなの 常識

変換
の逆説(パラドクス)

ひっくりかえして ふうではない
非常識 あたりまえではない
反対 あべこべ うらがえしの

1、逆説的なものの見方とは

子どもたちがノートに書いている間に、先生方に説明をしたいと思えます。

逆説というのは、パラドックスですね。普通の見方・考え方をひっくりかえしてみる見方を、変換といいます。ひっくりかえした見方です。六年以上でやることです。今日は五年生でしたが、よく頑張って考えてくれました。

変換という見方・考え方は、『ないことは、あることだ』『何も無いということは、何かあるということだ』、というふうに逆説的な矛盾をはらんだ考え方をいいます。

文芸には、逆説的な文章がよくあります。先ほどの詩を例にとれば、何も無いということは、見殺しにするということです。それは、汚い、見苦しい、みっともないことです。それを嘲笑い、風刺し、また鋭く批判しています。何もしてないというのは、ただ、空気を吸ったり吐いたりしているだけだ、ということ。逆説というのは、風刺の武器になるのです。

2、常識を疑う

この詩は、子どもたちが言っていましたように、ふざけた変な詩、変なだけでよく考えると鋭く真面目で大事なことを言っているわけです。常識では考えられないけど、常識を突き破ってもっと本質に迫っているのです。

何もしないということは、こういう関係がある時、中立ということはありえない、本人は、どっちの立場でもない、ただ中立と言っているのだが、こういう状況の中では、結局いじめの側に立つことになるのです。いじめを許していることになるのです。いじめを見て見ぬふりをしているのは、いじめを手伝っている、見殺しにするということになる、ということ子どもに分からせていきたい、と思います。

子どもにとって、常識的な考え方は大切なことです。教育はまず常識をつくらなければいけません。一年生から当たり前の考え方、普通の見方・考え方をしっかり教えていき、六年生ぐらいからは常識を疑ってみる見方も必要です。常識で自分の間違ったことを、隠したりごまかしたりしていることがよくあります。逆説的にものをひっくりかえして、変換してあべこべにしてみることが必要な時もあります。

3、傍観者の論理

そのまま常識で見るのではなく、常識を疑うことで、常識がおかしいことに気が付くことがあります。傍に突っ立って見ているだけという傍観者の態度の論理は、中立という論理です。どっちかの立場に立つというのは、どちらかで責任を負わないと行けません。だから、どっちにも付いてないと中立を主張することは、自分の責任を逃れたいという論理なので

す。

いじめ問題で一番の問題は、いじめている側の論理です。いじめられている方の問題も色々ありますが、傍観者こそ問題なのです。非常に困ったことは、傍観者は中立で何もしてないから、何の責任もないという常識を、持っていることです。だから、傍観者は何もしてないのに、何で先生に怒られるんだろうと、納得せず不満を持つのです。

傍観者の中に囲まれているから、いじめの問題が起きるのです。傍観者、中立の論理を否定していく必要があります。

「何もしてないよ。」と、いう子どもたちは、自分を正当化します。弱い子を助けたら、自分が強い子にやられる、いじめられる子も悪い、と悪い理由を挙げて自分を正当化するものです。こういう状況・関係の時は、逃げてはいけない、いじめを許してはいけない、見て見ぬふりをしてはいけない、ということをごどこかでしっかり指導しないとダメです。こういうものの見方・考え方をしっかり指導して行きたいものです。

この詩は、そういうことを教える教材として、価値があります。まど みちおさんも、そういうことを意図して書いています。くだけて笑わせながら、『いや、待てよ、大事な問題が有りはしないか』と、問い掛けてくる詩です。読者が変換して考えることによつて真理が見えてきます。六連では、中立者に対して嘲り、軽蔑しています。何もしい人間を、ただ、空気を吸ったり吐いたりするだけだ、と批判し、軽蔑し嘲笑っているのです。これが、文芸の力なんです。

終わりにしましょう。